

平成21年3月期 第1四半期決算短信

平成20年7月28日

上場会社名 江崎グリコ株式会社
 コード番号 2206 URL <http://www.glico.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江崎勝久
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 松本節範
 四半期報告書提出予定日 平成20年8月13日

上場取引所 東大

TEL 06-6477-8404

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第1四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	72,225	—	1,772	—	1,835	—	954	—
20年3月期第1四半期	69,514	3.8	1,127	△24.0	1,410	△33.6	666	△45.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第1四半期	7.43	—
20年3月期第1四半期	5.16	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第1四半期	213,064	121,131	56.0	934.12		
20年3月期	202,677	122,514	59.5	934.22		

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 119,413百万円 20年3月期 120,557百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	5.00	—	10.00	15.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	5.00	—	10.00	15.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	155,000	—	4,400	—	4,400	—	2,300	—	17.95
通期	288,000	3.3	5,200	21.9	5,300	3.3	2,300	63.6	17.97

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、2ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、2ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第1四半期 144,860,138株 20年3月期 144,860,138株

② 期末自己株式数 21年3月期第1四半期 17,024,515株 20年3月期 15,814,278株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第1四半期 128,495,409株 20年3月期第1四半期 129,126,443株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

上記業績予想に関連する事項につきましては、2ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご参照下さい。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期の業績は、以下のとおりであります。

売上高は牛乳・乳製品部門は減収となりましたが、菓子部門、冷菓部門、食品部門や畜産加工品部門が増収となったため、全体では72,225百万円(前年同期比+3.9%)となりました。売上原価率はわずかに上昇しましたが、増収による増益及び広告費の減少により、営業利益は1,772百万円(前年同期比+57.3%)、経常利益は1,835百万円(前年同期比+30.1%)、四半期純利益は954百万円(前年同期比+43.3%)となりました。

なお、各部門別の売上の状況は添付資料の8ページに記載しておりますのでご参照下さい。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末の財政状態は、以下のとおりであります。

純資産が121,131百万円(前連結会計年度末に対して1,382百万円の減少)となり、総資産が213,064百万円(前連結会計年度末に対して10,387百万円の増加)となりました。純資産の減少は、主に自己株式の増加によるものであり、総資産の増加は、主に短期借入金の増加によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の業績は、売上高はほぼ当初予想通りの見込ですが、製品規格の見直し等原材料高騰に対処した諸施策が浸透し、売上原価率が改善する見通しであるため、営業利益は4,400百万円(対前回見込数値より600百万円の増加)となる見込です。

それに伴い、経常利益、当期純利益もそれぞれ増加となる見込です。

なお、通期の業績につきましては、今後の販売競争の激化や原材料価格の更なる上昇を考慮し、当初予想並みと見込んでおります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率等が前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合に、前事業年度決算において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用し一般債権の貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

③法人税等の算定方法

重要性の乏しい連結子会社の税金費用の算定にあたり、前年度の税効果適用後の法人税等の負担率を使用し算定しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①会計基準等の改正に伴う変更

・当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

・所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号)を当第1四半期連結会計期間から早期適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。これに伴う損益への影響はありません。

②①以外の変更

・販売促進引当金

販売した製品に対する将来の販売促進費の支出に備えるため、過去の実績率に基づき計上することといたしました。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,065	9,380
受取手形及び売掛金	29,977	29,546
有価証券	9,554	7,349
商品	523	339
製品	8,707	7,319
原材料	10,396	9,611
仕掛品	1,054	997
その他	7,416	7,208
貸倒引当金	△121	△161
流動資産合計	81,575	71,593
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	21,068	21,444
機械装置及び運搬具(純額)	24,657	24,691
土地	14,358	14,396
その他(純額)	6,372	6,064
有形固定資産合計	66,457	66,596
無形固定資産		
ソフトウェア	580	748
その他	302	302
無形固定資産合計	883	1,050
投資その他の資産		
投資有価証券	50,749	48,794
その他	14,461	15,674
貸倒引当金	△1,062	△1,032
投資その他の資産合計	64,148	63,436
固定資産合計	131,489	131,084
資産合計	213,064	202,677

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	33,062	29,595
短期借入金	14,368	8,322
未払費用	19,145	18,636
未払法人税等	739	595
役員賞与引当金	—	91
販売促進引当金	1,009	—
その他	6,314	5,442
流動負債合計	74,640	62,684
固定負債		
長期借入金	6	6
退職給付引当金	12,990	13,287
役員退職慰労引当金	430	470
その他	3,865	3,714
固定負債合計	17,293	17,478
負債合計	91,933	80,162
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,773	7,773
資本剰余金	7,421	7,421
利益剰余金	115,595	115,932
自己株式	△11,867	△10,493
株主資本合計	118,922	120,633
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,811	684
繰延ヘッジ損益	△739	△803
為替換算調整勘定	△581	43
評価・換算差額等合計	490	△76
少数株主持分	1,717	1,957
純資産合計	121,131	122,514
負債純資産合計	213,064	202,677

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
売上高	72,225
売上原価	42,257
売上総利益	29,968
販売費及び一般管理費	
運送費及び保管費	6,509
販売促進費	7,758
広告宣伝費	3,866
その他	10,061
販売費及び一般管理費合計	28,195
営業利益	1,772
営業外収益	
受取利息	126
受取配当金	317
その他	437
営業外収益合計	880
営業外費用	
支払利息	66
金利スワップ評価損	419
その他	331
営業外費用合計	817
経常利益	1,835
特別利益	
固定資産売却益	219
その他	2
特別利益合計	221
特別損失	
貸倒引当金繰入額	32
特別損失合計	32
税金等調整前四半期純利益	2,025
法人税、住民税及び事業税	626
法人税等調整額	344
法人税等合計	971
少数株主利益	99
四半期純利益	954

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

（3）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（4）セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

当第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）

当連結グループは食料品の製造、販売のみの事業であり、当該事業以外に事業の種類がないため該当事項はありません。

b. 所在地別セグメント情報

当第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）

全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める本邦の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

c. 海外売上高

当第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は平成20年5月19日開催の取締役会において、信託方式による市場買付の方法によって自己株式の取得を決議いたしました。その結果、平成20年5月20日から平成20年6月26日までの取得期間において、1,195,000株、取得価額総額1,355百万円の自己株式を取得し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式は11,867百万円となっております。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

- ・（要約）四半期連結損益計算書

前第1四半期連結累計期間（平成19年4月1日～6月30日）

（単位：百万円）

科目	前年同四半期 (平成20年3月期 第1四半期)
	金額
I 売上高	69,514
II 売上原価	40,614
売上総利益	28,899
III 販売費及び一般管理費	27,772
営業利益	1,127
IV 営業外収益	865
受取利息及び配当金	483
その他	382
V 営業外費用	582
支払利息	35
その他	547
経常利益	1,410
VI 特別利益	1
VII 特別損失	—
税金等調整前四半期純利益	1,412
税金費用	647
少数株主利益	98
四半期純利益	666

6. その他の情報

・販売の状況

(単位：百万円、%)

	前年同四半期 (平成20年3月期 第1四半期)		当四半期 (平成21年3月期 第1四半期)		増 減		(参考) 前連結会計年度 (平成20年3月期)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	増減率	金 額	構成比
菓子	19,942	28.7	20,468	28.3	526	2.6	86,740	31.1
冷菓	15,251	21.9	15,912	22.0	661	4.3	55,469	19.9
牛乳・乳製品等	21,964	31.6	21,795	30.2	△168	△0.8	83,499	30.0
食品	4,509	6.5	5,706	7.9	1,197	26.5	21,550	7.7
畜産加工品等	7,846	11.3	8,342	11.6	495	6.3	31,425	11.3
合計	69,514	100.0	72,225	100.0	2,711	3.9	278,686	100.0

各事業部門別の状況は下記のとおりです。

<菓子部門>

国内では、新製品“チーズ”が好評で、「ポッキーグループ」も伸びましたが、“メンタルバランスチョコレートGABA”、“ポスカム”及び「プリッツグループ」等が苦戦となりました。また、海外では、タイ、上海の海外子会社が引続き好調に推移しました。

その結果、当第1四半期の売上高は20,468百万円となり、前年同期(19,942百万円)に比べ2.6%の増収となりました。

<冷菓部門>

“ジャイアントコーン”、“パピコ” “牧場しぼり”等の主力製品が順調に売上を伸ばしました。一方、“アイスの実”、“和ごころ”等は厳しい状況でした。

その結果、当第1四半期の売上高は15,912百万円となり、前年同期(15,251百万円)に比べ4.3%の増収となりました。

<牛乳・乳製品部門>

新製品“ドロリッチ”が好評で、“カフェオーレ”等の乳飲料も順調でしたが、清涼飲料やヨーグルト及びプリン関係は前年同期を下回りました。

その結果、当第1四半期の売上高は21,795百万円となり、前年同期(21,964百万円)に比べ0.8%の減収となりました。

<食品部門>

主力の“熟カレー”が好調で大きく売上を伸ばし、レトルトカレーも順調でした。一方、“DONBURI亭”が激しい競争の中、前年同期を下回り、“HOT菜中華”も苦戦となりました。

その結果、当第1四半期の売上高は5,706百万円となり、前年同期(4,509百万円)に比べ26.5%の増収となりました。

<畜産加工品部門>

主力の“パリッと朝食ウィンナー”等のソーセージ関係が好調で前年同期を上回り、さらに“Aーグル”等の食品原料も順調で前年同期を上回りました。

その結果、当第1四半期の売上高は8,342百万円となり、前年同期(7,846百万円)に比べ6.3%の増収となりました。